

ウィークリー・アウトルック

中銀会合後に方向感が出るか

【今週のポイント】

- ・日銀、米 FRB、英 BOE はいずれも据え置きか。先行きのヒントは？
- ・ノルウェークローネ/スウェーデンクローナは中銀のメッセージや原油価格の影響を受けそう
- ・豪と NZ の経済指標で市場による RBA と RBNZ の金融政策見通しが変化するか

今週は引き続き中東情勢に要注意でしょう。イスラエルとイランは 15 日もお互いへの攻撃を続けており、事態はさらにエスカレートするかもしれません。また、イランはイスラエルの背後に米国がいると批判しており、米国が何らかの形で紛争に巻き込まれる可能性もあるでしょう。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
6月15日		G7サミット(カナダ・カナナスキス、17日まで)、サミット期間中に日米首脳会談？			
6月16日		【南アフリカ】祝日(青年の日)			
	21:30	【米】NY連銀製造業景気指数(6月)	-10.0	-6.3	-9.2
6月17日	正午頃	【日】日銀政策金利	0.50%	0.50%	0.50%
	15:30	【日】植田日銀総裁の記者会見			
	21:30	【米】小売売上高 前月比(5月)	-0.4%	-0.6%	0.1%
		【米】小売売上高(除自動車) 前月比(5月)	0.3%	0.2%	0.1%
6月18日	15:00	【英】CPI 前年比(5月)	3.4%	3.3%	3.5%
		【英】CPIコア 前年比(5月)	3.6%	3.5%	3.8%
	16:30	【スウェーデン】リクスバンク政策金利	2.00%	2.00%	2.25%
	17:00	【南アフリカ】CPI 前年比(5月)	2.8%	2.7%	2.8%
	27:00	【米】FOMC政策金利	4.25-4.50%	4.25-4.50%	4.25-4.50%
	27:30	【米】パウエルFRB議長の記者会見			
6月19日		【米】祝日(ジュンティーンズ)			
	7:45	【NZ】GDP 前期比(1-3月期)	0.8%	0.7%	0.7%
	10:30	【豪】失業率(5月)	4.1%	4.1%	4.1%
		【豪】雇用者数 前月比(5月)	1.90万人	2.00万人	8.90万人
	17:00	【ノルウェー】ノルゲバンク政策金利	4.50%	4.50%	4.50%
	20:00	【英】BOE政策金利	4.25%	4.25%	4.25%
		【英】BOE議事録			
	20:00	【トルコ】TCMB政策金利	46.00%	46.00%	46.00%
6月20日		【NZ】祝日(マタリキ)			
	8:30	【日】CPI 前年比(5月)	3.5%	3.5%	3.6%
		【日】CPI(生鮮食品を除く) 前年比(5月)	3.6%	3.6%	3.5%
		【日】CPI(生鮮食品・エネルギーを除く) 前年比(5月)	3.2%	3.2%	3.0%
	21:30	【米】フィラデルフィア連銀製造業景気指数(6月)	-5.0	-1.0	-4.0

市場予想はBloomberg、6月16日09:00現在。発表日時は日本時間。

G7 サミットが 15-17 日の日程でカナダ(カナダスキス)で開催されています。緊張が高まるイスラエルとイランの中東情勢や、トランプ関税が絡んだ通商問題に関してどのような議論がなされるでしょうか。カナダのカーニー首相はコミュニケ(共同声明)の発表を行わないことにしたとの報道があります。G7 首脳他、フォンデアライエン欧州委員長、ウクライナのゼレンスキー大統領、メキシコのシェインバウム大統領、インドのモディ首相らが参加する予定です。また、日米首脳会談の開催が見込まれており、関税に関して何らかの合意はできるでしょうか。

今週は中央銀行ウィークでもあります。主要中銀では、日銀の金融政策決定会合、米 FRB の FOMC (連邦公開市場委員会)、英 BOE の MPC (金融政策委員会) がそれぞれ開催されます。その他にも、スウェーデンのリクスバンク、ノルウェーのノルゲバンク、トルコの TCMB の政策会合があります。リクスバンクは 0.25% 利下げが予想されています。それ以外は、いずれも金融政策の変更は予想されていません。ただし、声明文や会合後の記者会見で先行きの金融政策に関して何らかのメッセージが発せられるかもしれません。

とりわけ、トランプ大統領が利下げを強く要求していることに対して、パウエル議長はどんな発言をするか注目されます。パウエル議長は前回 5 月の FOMC 後の会見で、「(大統領の発言は)我々の仕事に全く影響しない」と明言しました。3 カ月に一度発表される FOMC の経済・金融見通しで政策金利見通し、いわゆるドット・プロットにも要注目です。＜西田＞

* * * * *

イスラエルとイランの軍事衝突によって中東情勢が緊迫しています。中東情勢には引き続き要注意。中東情勢が一段と緊迫化する場合、リスクオフ(リスク回避)が強まるとともに、クロス円(豪ドル/円や NZ ドル/円など)に対して下押し圧力が加わりそうです。

原油価格の動向も材料になる可能性があります。米 WTI 原油先物は 12 日の夜間取引で一時 77.62 ドルへと上昇し、1 月下旬以来およそ 5 カ月ぶりの高値をつけました。中東情勢次第で原油価格はさらに上昇する可能性があり、その場合にはカナダドルのプラス材料になるかもしれません。

日銀金融政策決定会合や FOMC (米連邦公開市場委員会)にも注目です。日銀の追加利上げ観測が後退する場合には円の、FRB の追加利下げ観測が高まる場合には米ドルのマイナス材料になりそうです。

19 日には、豪州の 5 月雇用統計や NZ の 1-3 月期 GDP (国内総生産)が発表されます。それらの結果を受けて、RBA (豪中銀)や RBNZ (NZ 中銀)の先行きの金融政策について市場の見方が変化するかに注目です。

同じく 19 日に TCMB (トルコ中銀)の政策会合が開かれます。TCMB は前回 4 月の会合で主要政策金利の 1 週間物レポ金利を 42.50% から 46.00% へと引き上げました。今回の会合については、政策金利は据え置かれるとの見方が市場では優勢です。

TCMB の声明にも注目です。4 月会合の声明では、「インフレ率の持続的な鈍化によって物価の安定が達成されるまで、引き締めの金融政策スタンスを維持する」、「インフレ率の大幅かつ持続的な悪化が見込まれる場合、金融政策スタンスを(さらに)引き締める」などとされました。

TCMB のタカ派的な金融政策スタンスが今回変化しなければ、トルコリラのプラス材料になりそうです。

＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ: 140.000 円～148.000 円>

先週の米ドル/円をみると、「リスクオフの強まり＝円高」との単純な図式が当てはまるとは限らないようです。

11 日 10 年物国債と 12 日 30 年物国債の入札が順調に終わったことで、いずれの日も長期金利(10 年物国債利回り)が低下して米ドル/円は下落。また、トランプ大統領が各国に書簡を送ったことで関税が意識されてリスクオフになったことも、米ドル/円の下落(＝円高)を招いたようです。一方、13 日はイスラエルによるイラン空爆の報道によりリスクオフが強まりました。ただ、原油価格が急騰したことでインフレ懸念が再燃して、米長期金利が上昇。米ドル/円も上昇しました(＝円安)。

もっとも、米長期金利の上昇が必ずしも米ドル高を招くとも限りません。現在、米議会でトランプ関税を実現するための予算調整法案が審議されています。それが財政赤字拡大の懸念を強める形で長期金利が上昇する場合、米ドルには下落圧力が加わるかもしれません。

今週も、中東情勢やトランプ関税、トランプ減税に絡んで、市場のリスクセンチメントが大きく変動する可能性があります。それが、為替市場だけでなく、株式市場や債券市場にどのような影響を与えるのか、注意深く観察する必要があります。＜西田＞

今週の注目通貨ペア②: <ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ

予想レンジ: 0.93000S クローナ～0.98000S クローナ>

ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ(以下、NOK/SEK)は今年 4 月上旬に 20 年 3 月の「コロナ・ショック」以来の安値をつけてからジリジリと上昇しています。

リクスバンク(スウェーデン中銀)は、18 日の政策会合で利下げしそうです。昨年 6 月から今年 1 月まで 6 回計 1.75%の利下げを実施。3 月と 5 月は据え置きでした。5 月の声明では、海外情勢の不確実性を根拠に「インフレは 3 月時点の予想に比べて高くなるより、低くなる可能性がやや高いと判断。先行きにわずかな利下げを示唆しているのかもしれない」とされました。ただし、今回利下げを行えば政策金利は 2.00%となるため、声明などで利下げの打ち止めが示唆される可能性があります。

ノルゲバンク(ノルウェー中銀)は、19 日の政策会合での据え置きが予想されています。5 月会合の声明では、「将来の経済情勢は不確実ながら、現時点での判断では 25 年中に利下げが行われる可能性がもっとも高い」とされました。したがって、今回の声明では近々の利下げが示唆されるかもしれません。

リクスバンクが利下げ、ノルゲバンクが据え置きならば、両者の金利差（現在 2.25%）は一段と拡大することになります。ただし、前者が打ち止めを、後者が利下げ接近を示唆するならば、今後、両中銀の金融政策に関する市場の観測は、ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ（NOK/SEK）の下落材料になりそうです。

ノルウェーが産油国であるため、NOK/SEK は原油価格にも影響を受けます。中東情勢の緊迫化などを背景に原油価格が一段と上昇する場面では、NOK/SEK にも上昇圧力が加わりそうです。＜西田＞

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.07000NZドル~1.08500NZドル>

豪州の 5 月雇用統計と NZ の 1-3 月期 GDP（国内総生産）が 19 日に発表されます。それらの結果に豪ドル/NZドルが反応しそうです。

RBA（豪中銀）と RBNZ（NZ 中銀）の先行きの金融政策について市場の見方には差があります。OIS（翌日物金利スワップ）によると、市場では 12 月末までに RBA は合計 0.75%（0.25% × 3 回）の追加利下げを、RBNZ は合計 0.25%（0.25% × 1 回）の追加利下げを行うとの見方が優勢です。

豪州の雇用統計と NZ の GDP の結果を受け、市場による両中銀の金融政策見通しがどのように変化するかに注目です。仮に RBA の追加利下げ観測が高まる一方で、RBNZ の追加利下げ観測が後退する場合、豪ドル/NZドルには下落圧力が生じそう。豪ドル/NZドルは、1.07253NZドル（6/3 安値）を割り込むかもしれません。＜八代＞

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.34000 カナダドル~1.38000 カナダドル>

米ドル/カナダドルは 6 月 13 日に一時 1.35645 カナダドルへと下落し、24 年 10 月上旬以来の安値をつけました。米国景気の先行きへの懸念のほか、中東情勢をめぐる懸念による原油価格上昇が、米ドル/カナダドルに対する下落圧力となりました。

今週は 17-18 日の FOMC や原油価格の動向が材料になりそうです。FOMC の結果を受けて FRB の追加利下げ観測が高まる、あるいは原油価格が引き続き堅調に推移する場合、米ドル/カナダドルは一段と下落しそう。米ドル/カナダドルの下値メドとして、200 週移動平均線（6/16 時点で 1.34192 カナダドル）が挙げられます。＜八代＞

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
